



sapporo
education and culture hall
news

raku

KUNIO11
HAMLET
directed by Kunio Sugihara
SAPPORO
7.24 thu.

演出・杉原邦生

KUNIO11『ハムレット』

KUNIO流
ハムレットって
どんな舞台ですか？



語り、三味線、そして人形。それぞれが日本に古くから伝わる芸能であり、特出した技法である文楽。その魅力を、人形浄瑠璃文楽座技芸員である、大夫の豊竹英大夫、三味線の鶴澤清丈、さらに古典芸能に造詣の深い河内厚郎(兵庫県立芸術文化センター)特別参加を招いて、義太夫節をテーマとした文楽セミナーを開催しました。当日は幅広い年代の方々から来場し、満員御礼の状態でした。当日は幅広い年代の方々から来場し、満員御礼の状態でした。

豊竹英大夫と河内さんのユーモアたっぷりの対談で口火を切り、会場から大きな笑い声も聞こえるほど。大夫という芸の魅力について語り、「70歳でもまだ子ども扱い。長生きが一番の芸」とその奥深さについてもお話いただきました。

鶴澤清丈が三味線でさまざまな情景描写を演奏しながらレクチャーをした後は、「義経千本桜」の本の一部を参加者全員で実際に声を出して語るワークショップ。締めくくりに浄瑠璃「艶容女舞衣」(はですがたおんなまいぎぬ)を実演し、義太夫節の魅力をつぶりと披露。次回開催の期待が高まるセミナーとなりました。



ワークショップ参加者募集のお知らせ

子どものためのオペレッタ
ワークショップ参加者募集!

歌・ダンス・演技・小道具づくりをプロの講師から学び、創造力とコミュニケーション能力を育みます。



- 開催期間/平成26年9月~平成27年1月
- 発表公演/平成27年1月10日(土)
- 対象/小学3年生~中学3年生(経験者は高校生も可)
- 募集人数/50名
- 応募方法/教育文化会館などで配布する応募用紙に必要事項を記入のうえ郵送してください。
- 募集期間/6月16日(月)~7月24日(木) [必着]



ワクワク
ワー
ク
シヨップ

分かればもっと面白い文楽の世界
文楽セミナー〜豊竹英大夫を招いて

文楽の要である義太夫節について、大夫、三味線、そして古典芸能に詳しい専門家をお招きし、初心者も楽しめるセミナーを開催しました。

平成26年5月3日(土・祝)開催
出演/豊竹英大夫 鶴澤清丈 河内厚郎

教文職員
から一言

豊竹英大夫と河内さんの、親しみやすいトークで文楽の魅力をわかりやすく解説していただきました。三味線の清丈さんによる実演は迫力満点でした! 今後も古典芸能を楽しく紹介していきます!



教育文化会館事業課
小林 純平

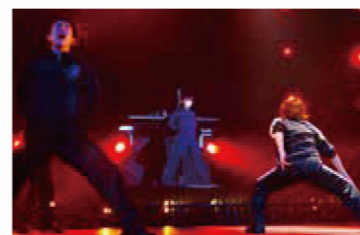
PICK UP EVENTS

[教文主催事業ピックアップ]



★☆☆北区AKT STAGE
つかこうへいが遺した者たち「飛龍伝2014」
7月16日(水) 19:00 大ホール

2011年のつかこうへい逝去に伴い解散した東京の「★☆☆北区つかこうへい劇団」。当時の劇団員有志が創設した「★☆☆北区AKT STAGE」が、学生運動の最中、革命の夢と現実、そして愛する者たちに翻弄されながら、機動隊との最終決戦を迎えようとする全共闘40万人のトップ・神林美智子の物語を演じます。



鬼才、つかこうへいが遺した者たちの
熱き芝居にご期待ください!



杉原邦生演出
KUNIO11「ハムレット」
7月24日(木) 19:00 小ホール

演出家の杉原さんは、「木ノ下歌舞伎」でのダイナミックでケレン味ある演出で今最も注目を集めている演出家です。昨年も「東海道四谷怪談」で高い評価を得ました。今回の「ハムレット」上演は、シェイクスピアの古典的名作を、札幌、京都、豊橋、東京の4つの劇場が共同制作するという、今までにない新たな試みです。ぜひ足を運んでください!



「ハムレット」演劇ワークショップも行います!
ぜひお越しください!

KYOBUN



教文アートめぐり

設計
田上 義也 (1899-1991)
Tanoue Yoshiya

栃木県生まれ。帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトのもとで建築を学び、大正から昭和期にかけて北海道で活躍。札幌・小樽・旭川・函館など各所に手がけた建築が現存する。



札幌市教育文化会館

[開館:1977年7月16日]

建築家、そして
音楽家としての
集大成。

札幌市教育文化会館の開館は1977年のこと。設計は北海道の開拓期から多くの建築を手がけた田上義也。人形劇場こぐま座や狸小路のアーケード、個人邸宅から公共の施設まで現存する建物も多い建築家です。田上は音楽家としての一面も持ち、札幌新交響楽団の創立者、初代指揮者として札幌の音楽環境を整えてきた一人でもあります。田上が関東大震災を機に北海道に移住する際、列車で同席した英国人牧師ジョン・パチエラーとバイオリンの話で意気投合し、当初予定していた小樽行を取りやめて札幌にあるパチエラー邸で北海道の生活をスタートさせたという音楽家ならではのエピソードも残っています。そんな田上の、建築家として、そして音楽家としての技術を反映した晩年の建築が札幌市教育文化会館です。北側には同じく田上が設計した日本キリスト教会札幌北一条教会もあるので、建築散歩もおすすめです。

さっぽろ 演劇人

No.001

小林 エレキ

一度観たらはまってしまふ、
そんなキャッチーな芝居をつくりたい。

小林エレキ プロフィール

1979年、札幌市生まれ。札幌藻岩高校で演劇を始め、劇団「yhs」に入団。釧路公立大に進学、卒業後は大手医療器具メーカーに就職しつつも演劇を続け、30歳を機に退社、役者として事務所にも所属。現在は舞台以外にも映画・CM出演、怪談バーの語り部など、活躍の場を広げている。

SAPPORO ENGEKIJIN KOBAYASHI ELEKI



「嬉しいかったです」
——どんな演目を？
「キリストを裏切るユダが主人公のひとり芝居です。太宰治原作の『駆込み訴え』という作品な

札幌の好きな場所で撮影しましょう、という提案に「引きこもりなんですよね」と返してくれた小林エレキさん。
2014年3月に福島県いわき市で行われた「Troy Esports」演劇からの復興「いわき演劇まつり」。小林さんはそのプログラムのひとつ、短編演劇コンペティション「劇王っぽいII」に海を越えて参加。みごと優勝を勝ち取り、「劇王っぽいII」2代目の王冠は劇団yhsの稽古場に鎮座していました。
近況について、これからについて聞いてみました。
——優勝おめでとうございます。
「ありがとうございます。今回は教文の短編演劇祭の優勝劇団として、参加してきました。他の参加劇団は地元の方ばかりでしたし、北海道からは南参(yhs主宰・演出)と僕だけで参加したので、すごいアウエー感でした(笑)。ですけど、観客の皆さんがたくさん票を入れてくれて、ふつう地元を応援しなくなると思うんですけど、ほんとうにおもしろいと思ってもらえたんだなと嬉しかったです」

んですが。これはもう一人でしゃべりまくるので、演じる方はきつい芝居なんですけど、これまで札幌、大阪、仙台などでも上演してきた、だんだんと思入れのある作品になってきました。ユダなのにスーツを着ていたり、かなりポップな太宰作品になっていると思います」
高校で演劇を始め、演劇部の先輩だった南参氏の劇団「yhs」に所属。大学進学、就職後も演劇活動を続けましたが、30歳を機に仕事を辞め、現在は役者としての生活を中心に活動を続けています。
——役者一本にしようと思ったのは？
「だんだん仕事が忙しくなり、芝居を続けるのが難しくなってきた、というもひとつのきっかけでしたし、もっとうまい役者になりたいという気持ちもありました。『表現』することに近い環境にしたかったんです」
——これから目指したいことは？
「札幌には『演劇シーズン』など、演劇を見たことがない人も足を運びやすい機会もあるけれど、まだまだ敷居が高いと思われるので、一度観てみたら演劇にはまった！という人を増やしていきたいです。そして目の肥えた観客がもっと増えて欲しい。観やすくて、それでいてキャッチーな芝居をつくりたいと思います」